

令和6（2024）年度 地域連携教員研修 実施報告

実施日：令和6年11月19日（火）

本研修では、県内各地から小・中学校、高等学校、特別支援学校の地域連携教員が集まり、学校と地域が連携・協働した教育活動を推進する目的や意義を確かめるとともに、地域連携教員の役割や地域の教育資源を生かすための方策・アイデアなどを学びました。

○ 説明「本県の地域連携教員への期待」

総合教育センター職員

学校と地域の協働を進めていくためには、学校と地域がお互いに当事者となり、共通の目標に向かっていくことが必要であり、一つのチームとして機能していかなければならないことが示されました。その後、学校と地域が「共通の目標・ビジョンに向かう」「おかげ様、お互い様の関係をつくる」ことが可能になるよう、地域連携教員として努めていってほしいという話がありました。また、これからの地域連携教員の役割として、管理職が描く学校づくりの具現化に寄与すること、連携活動の質を高めていくこと、管理職と共に連携活動のマネジメントを行うことなどが期待されていると伝えられました。

受講者にとって、地域連携教員としての今後の活動の在り方について、示唆を得る機会となりました。

○ 講話「地域と連携・協働した教育活動の充実に向けて～地域連携教員の在り方を考える～」

全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 橋本 洋光 氏

地域とうまくつながるためには、学校内に地域コーディネーター、教職員、保護者そして地域住民が集まることができる空間（場）の設定をすることが一つの手段であると示されました。各校で行われている地域と連携・協働した教育活動を充実させていくためには、教師とボランティアの方々の思いを共有することが大切であるという話もありました。教師が一方的にお願いするのではなく、ボランティアの方々がどうしたいかを考えることにより、よりよい協働になっていくという考えが示されました。また、地域資源を活用した学習プログラムとして、島根県の「ふるさと教育」、石川県七尾市の「ふるさと歴史教室」、橋本氏自身が中学校の公民の授業で行った「サービス・ラーニング」など、多くの取組が紹介されました。どの取組も、それぞれに特色があり、子どもたちが主体となって活動できる仕掛けを作ることの大切さを改めて感じさせてくれるものばかりでした。

○ パネルディスカッション「実践事例から学ぶ～地域の教育資源を有効活用するポイントとは～」

栃木市立赤津小学校 地域連携教員 大岡 裕 氏

県立足利清風高等学校 地域連携教員 森 邦子 氏

全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 橋本 洋光 氏

総合教育センター職員

県内2名の地域連携教員が登壇し、各校の取組のねらいや内容、成果、課題についての発表がありました。その後、受講者がもう少し詳しく知りたい、説明を聞きたいと感じたことについて、実践者からの回答や橋本氏からの解説、補助説明などがありました。一連のやりとりを通じて、地域の教育資源を有効活用するためのポイントを確認しました。発表者の丁寧な説明や橋本氏の的確な指導助言により、多くの受講者が地域連携に対する意欲を高めることができました。



○ 協議・情報交換「地域連携教員として今後取り組みたいこととは」

総合教育センター職員

グループごとに、それまでの説明、講話、パネルディスカッションの感想や今後の取組の参考になると思った部分について、受講者同士で話し合いを行いました。また、地域との連携・協働に向けて各学校で取り組んでいることや今後取り組みたいと思っていることについての情報交換も行いました。どの受講者も、今後の自校での取組を見据え、積極的に発言していました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・教師とボランティアの方の思いを共有することの大切さや難しさについて考えさせられました。こちらから一方的にお願いするのではなく、ボランティアの方がどうしたいかを考えるようにしたいと思いました。
- ・地域資源を活用した学習プログラムの例がいくつか紹介されていましたが、それぞれに特色があり、良かったです。
- ・地域の教育資源の情報を得て、先生たちのニーズに応えられるようにしたいです。また、そこで地域と学校がうまくつながれる仕掛けも一緒に考えていきたいと思いました。
- ・地域の方が集まる場所を学校内に作り、生徒が日常的に地域の方と関わることができる取組をしていきたいと考えました。
- ・実際に他県や、他の地域のことを知れるのは、とても参考になりました。小・中の取組も高校とは全く違い、学ぶところも多かったです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp